

## 山に雪が積もると滑りたくなる

毎年この時期になると、ウインタースポーツの話があちこちから聞こえてきます。映画『私をスキーに連れてって』が1987（昭和62）年に公開されたころ、日本のスキー愛好者人口はピークでした。

若かった私も毎週山形の蔵王スキー場へ行き、朝から夕方まで滑っていたものです。休むのは昼食時間とリフトに乗っているときだけと、今では考えられないようなハードスケジュールでもへっちゃらでした。

70歳を過ぎた現在でも、山に雪が積もると滑りたくなります。そんなことになったワケというのは…。

## 学生時代のスキー部での思い出

私が京都から仙台の大学に入学したのは、もう53年前になります。

京都にいたころには数えるくらいしかスキーができなかったので、東北でしかできないことと思い、下手くそながらスキー部に入部しました。

入部して1か月くらいの5月20日が大学の創立記念日。その日に合わせて山形の月山で新入生歓迎スキー合宿があり、参加することにしたのです。

当時の国鉄で仙台から山形まで行き、山形からはバスで月山に向かいます。今は山形自動車道ができて楽ちんですが、当時は月山ダムができる前。寒河江川沿いの集落（現在は水没してない）を縫うように細い道路があり、「山奥へ連れて



70歳を過ぎてもウインタースポーツ  
今年もスノーボードを堪能する  
京都から仙台に移り住み、学生時代から勤しんでいたスキー。今は  
ケガと熊に気をつけながら、スノーボードを楽しんでいます。



行かれるんだ」という不思議な気持ちがありました。

志津温泉からさらに奥の姥沢地区にあった、姥沢小屋（現在は壊されて土台しかない）で宿泊です。そのころは自家発電機で裸電球は灯っていましたが、その少し前まではランプだったそう。

薪で調理するので小屋の中は煙っぽく、でもそんなことはいっていられません。合宿で先輩にしごかれた後の腹ぺこの18歳には忘れられない思い出です。

昼食後の休憩時間には、小屋の部屋の窓から屋根に出て、雪面を越えてくるひんやりとした風を全身で受けながら、紫外線のことなど気にもせず、日光浴をしたものです。

そのころ熊は山深いところにいて、またぎの爺さんが鉄砲で熊を仕留めたと自慢話を小屋で聞かされた、のどかな時代でした。この半世紀の間に環境が激変してしまったのです。

冬眠中で出くわすことはないと思いますが熊に注意して、そして年々固くなっていく足腰をケアをして、いたわりながら今シーズンもスノーボードを楽しみたいと思います。

宮川薬局（宮城県仙台市）代表  
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ  
宮川季士先生

プロフィール

1976（昭和51）年、東北薬科大学（現・東北医科薬科大学）卒業。'78（同53）年、同大学大学院修士課程修了。'87（同62）年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが「からだを温める食事をとっていきましょう」

